

学校概要

創立 44 周年	学校長 澤田 有子	副校長 高城 剛	学期 2 学期制	児童・生徒数 304 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2			主な関係校: 中川西中学校 荏田南中学校	

学校教育目標

◎「人」、「自然」、「まち」と主体的にかかわりながら、子どもたちが自らを高めていくことを大切にします。

- 【知】 自ら考え、粘り強く解決する力を育みます。
- 【徳】 互いに認め合う、豊かな人間関係を育みます。
- 【体・徳】 豊かな体験を通して、健やかな心と体を育みます。
- 【公】 自分の生き方について考え、正しく判断する力を育みます。
- 【開】 人とのコミュニケーションを通して視野を広げられる力を育みます。

学校の特色

□「米づくりは人づくり」というスローガンのもと、稲作活動を通して豊かな心を育てていくことを大切にしている。稲作活動の主要部分は、多くの保護者・地域の方々の協力のもとに行われているため、教職員と保護者・地域の方々のつながりも太く、PTAや地域が主催する行事には、教職員も積極的に参加している。
 □学年縦割り活動が盛んで、様々な行事で「なかよしグループ」による活動を行っている。高学年が下級生を思いやり、低学年が上級生にあこがれをもち、学年の枠を越えて子ども同士が心を通わせ合う姿がさまざまな場面で見受けられる。
 ■学力・学習状況調査の結果からは、基礎・基本的な学力の向上に一層取り組む必要があることが分かった。

学校経営中期取組目標

- 学校教育目標の実現を目指して、活力と魅力にあふれた学校づくりをします。
- ・保護者、地域との連携、協働の中で、豊かな心を育てます。
 - ・健康教育と食育の充実を図り、健康でたくましい体を育てます。
 - ・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、学力を向上させます。
 - ・多くの人々との交流を通して、人間関係のつくり方を学び、社会の変化に対応できる力を育てます。
 - ・教職員が相互に啓発、連携する活気にあふれた学校運営組織をつくります。

小中一貫教育の取組

中川西中 ブロック : 中川西中学校・中川西小学校・都筑小学校・すみれが丘小学校・荏田小学校

9年間で育てる子ども像	○主体的に関わろうとする子
自校の具体的取組	・担当者会で得た情報を基に、「荏田っ子スタンダード」などの改善を進める。・あいさつをしっかりとる子・認め合い、励まし合い、高め合う子・自らの課題を見つけ、解決しようとする子。 ・児童生徒交流日や中学校見学だけでなく、中学校教師による体験授業や音楽を通じた交流などを充実させていく。 ・ユニバーサルデザインをテーマにした授業を小中共通の課題として実践していく。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	校内研究の成果を生かし、仲間と関わり合いながら豊かに学べる子の育成と、基礎的学力の向上を目指す。	①基礎・基本の一層の定着のために、荏田っ子タイムと家庭学習を充実させる。②身につけさせたい力と評価規準を明確にし、子ども同士の学び合いを重視した主体的な学習を創造していく。③重点研究で社会科及び生活科を取り上げ、子ども自らが問題を見つけ、解決方法を考え、解決していく子ども主体の授業を目指す。
豊かな心	本校の特色である稲作体験活動と縦割り活動を柱として、子ども同士がかかわり合い、互いに思いやる心を育てるようになる。	①学習やさまざまな行事等を通して地域の方々とのふれあい、豊かな人間関係を育てるようになる。②荏田小の特色ある学び(・米づくりなどの豊かな生産栽培活動による学び・縦割り集団を中心とした祭りなどの豊かななかよし活動による学び・地域の方々との昔遊びやスポーツ文化的な活動などの豊かなふれあい活動による学び)の創造を継続していく。
健やかな体	仲間と豊かにかかわる楽しさを実感できる授業づくりを目指す。さらに、一校一実践運動の「持久走」に加え、縄跳び運動を通して、体力向上を図る。	①体育では、友達とかわりながら楽しんで技能を高め、体力をつけていく授業を心がける。②休み時間に友達と外で体を動かして、心と体がともに育っていくように支援する。③全校を挙げて、持久走と大縄・短縄運動の取組を継続できるように、教職員の共通理解のもと健康委員会の活動を進めていく。
児童生徒指導	全職員が一貫した指導を行い、問題の未然防止に努めるとともに、人権教育の効果的な取組を通して、子どもが安心して通える学校づくりをしていく。	①全職員で一貫した指導をし、児童が安心して過ごせる環境を作り出せるようにする。②YPAセサメントを適宜行い、学級や子どもの課題を把握し、子ども一人ひとりの自尊感情を高められるよう支援していく。③年3回の人権週間での取組を児童の実態に合わせて吟味し、人権意識の涵養を図るとともに、高学年への情報モラル教育を実施していく。
特別支援教育	特別な支援が必要な子に対して、担任・児童支援専任・関係機関・保護者などに拠る支援チームをつくり、課題解決に努めていく。	①特別な教育的支援の必要な子どもを肯定的にとらえながら実態を把握し、問題行動に対する予防的な取組を教職員全体で共有できるよう「個別の支援計画」「個別の指導計画」を用い、適切な対応や指導・支援を行えるようにする。②関連機関とも積極的に連携し、課題解決に向けて組織的な支援をしていく。
地域連携	米づくりや縦割りなかよし活動、餅つき祭りなどのまちの人々との豊かな出会いやかかわりによる人づくりを行う。	①稲作体験活動やもちつき祭りでの昔遊び体験、総合的な学習におけるインタビューなど、学習や行事を通してまちの方々とのふれあいを重視し、感謝の気持ちを持ち、まちを大切にすることを養う。②学校・地域コーディネーターとの連携を密にし、学校支援ボランティアによる活動を整備・拡充させ、まちと共に歩む学校を目指していく。
学校運営協議会	子どもの成長を地域全体で支える体制づくりと、荏田小学校の特色ある活動が今後も維持できるように、年2回の会を有意義なものにしていく。	①学校経営方針を理解していただけるよう努め、家庭や地域と一体となって特色ある学校づくりを推進できるようにする。②構成委員の方々の意見に真摯に耳を傾け、学校運営に生かし、子どもたちを見守る温かい支援の輪を築いていけるようにする。
いじめへの対応	児童一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また、全ての児童の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。②児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童支援専任教諭からなるチームによる支援を進める。
人材育成・組織運営	若手教員の校内研修に重点をおき、指導力向上を目指すとともに、教師としての資質向上や授業の質を高めるための時間の確保に取り組む。	①経験が浅い教員でメンターチームを組織し、先輩教師の助言のもと授業研究や実技研修を行い指導力の向上を目指す。②各組織内での意見交換の時間を十分に確保し、個々の業務目標が明確にもつようにするとともに、それぞれの組織が連携・協働して円滑な学校運営を進められるようにする。③会議を効率化し、子どもと向き合う時間を確保していく。